

スポーツ庁委託事業

「Specialプロジェクト2020体制整備事業」

平成29年度

「Specialプロジェクト2020」

体制整備実践記録



平成30年3月

京都市立呉竹総合支援学校

京都市教育委員会

目次

1. Specialプロジェクト2020体制整備事業について	01
(1) 事業趣旨	01
(2) 取組内容	02
(3) Specialプロジェクト2020体制整備事業推進に関する会議	05
2. 余暇体験サークル	08
(1) 余暇体験サークルとは	08
(2) これまでの取組	08
(3) 29年度の取組	09
(4) 29年度取組の成果	10
(5) 今後の課題	10
3. 部活動	11
(1) これまでの取組	11
(2) 29年度の取組	11
(3) 29年度取組の成果	12
(4) 今後の課題	12
4. 「金ゴゴ」をはじめとする「たのしむ」授業の充実	13
(1) 「金ゴゴ」をはじめとする「たのしむ」授業とは	13
(2) これまでの取組	13
(3) 29年度の取組	14
(4) 29年度取組の成果	14
(5) 今後の課題	16
5. くれたけまつり	17
(1) 実施要綱	17
(2) 運営組織	19
(3) 企画立案・準備の様子	20
(4) 当日の様子	22
(5) 参加者の声	25
(6) 成果	27
(7) 課題	28
(8) 参考資料	29
6. Specialプロジェクト2020体制整備事業の成果と課題	33
(1) 成果	33
(2) 課題	33

1. Specialプロジェクト2020体制整備事業について

(1) 事業趣旨

本市の総合支援学校（特別支援学校）は、平成16年4月に、従来の障害種別ごとに基づく教育から、障害種別を超えた一人一人のニーズに応じた教育制度（総合制）へ、また障害のある児童生徒が地域の中で豊かな生活を送り、地域に開かれた学校で学ぶことを目指して、京都市内を4つの通学区域（4ブロック）に分け、北・東・西・呉竹それぞれ居住地に近い総合支援学校へ通学する制度（地域制）へと転換した。また、総合支援学校8校全てに学校運営協議会を設置しており、地域との結びつきも強い。総合支援学校で実施している運動会や文化祭だけではなく、夏祭りや秋祭り等にも地域の方々が参加され共に活動したり、地域の自治連合会等が主催するお祭りや運動会等に総合支援学校教職員や生徒が参加して共に活動したりする等、「地域に開かれた学校づくり」を推進している。

スポーツ活動については、フライングディスクやボッチャ等の障害者スポーツを始め、野球、ソフトボール、卓球、陸上等の運動部活動も盛んに行っており、全国障害者スポーツ大会にも数多くの総合支援学校生徒や卒業生が出場している。さらに、地域の障害者スポーツ団体等に、総合支援学校のグラウンドや体育館を貸し出す等の取組も行っており、地域の障害者スポーツの振興の一端を担っている。

文化・芸術活動についても、授業や部活動、余暇活動等の時間を利用した表現・制作活動等も積極的に行っている。本市においては、NPO法人「障害者芸術推進研究機構（通称：天才アートKYOTO）」（以下、「天才アートKYOTO」と記載）との協働のもと、学校の取組を通じて、そういった表現や制作に素晴らしい能力を発揮した障害のある児童生徒が、在学中あるいは学校卒業後も継続して創作活動ができる場を確保し、その作品の展示等も行う「障害のある方の芸術活動支援事業」を実施し、障害者芸術の振興にも取り組んでいるところである。

一方、国においては2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックの開催と新学習指導要領の実施を契機に、全国の特別支援学校で、スポーツや文化・教育活動の全国的な祭典を開催するべく、「Specialプロジェクト2020」が始動している。

また、京都への文化庁移転の決定を受けて、京都に息づく「日本伝統の生活文化、精神文化や多彩な文化芸術」のさらなる振興・発展に取り組んでいく必要があり、「天才アートKYOTO」と協働で取り組んでいる障害者芸術の一層の振興・推進も求められている。

本市では上記のような状況を踏まえ、平成29年度スポーツ庁研究委託事業「Specialプロジェクト2020体制整備事業」を受託し、障害のある子どもの余暇活動を意識した授業や部活動におけるスポーツ・芸術活動が充実しており、かつ自校児童生徒のみならず、他の総合支援学校や通学区域の育成学級（特別支援学級）生徒をも対象に、障害のある子どもが地域の中で充実した余暇活動が行えるようになること、そのためのネットワークの拡大を図ること、それによりスポーツ・芸術活動の振興や子どもの健全育成を図ることを目的として「余暇体験サークル」を10年にわたって実施している京都市立呉竹総合支援学校をモデル校とし、同校の取組のそれぞれを関連づけてより充実・発展させ、障害者芸術や障害者スポーツの地域の拠点を作り、その取組を基礎として、平成30年2月24日に専門家・地域の方を巻き込んだ芸術・スポーツの祭典「くれたけまつり」を実施した。

これらの取組は、2020年（平成32年）のスポーツ・芸術の祭典開催にむけての実践事例の蓄積と実施に係るノウハウの開発を目指したものであり、全市的に情報発信することで、2020年の専門家・地域の方も巻き込んだスポーツ・芸術の祭典開催を目指した取組を全市的に推進していくことを目的としている。また、最終的にはこれらの取組を通して総合支援学校が、障害の有無や年齢・性別を超えた地域の共生社会の拠点となることを目指すものである。

（2）取組内容

呉竹総合支援学校で既に実施されている、余暇体験サークル（※）の活動を中心として、部活動（※）・金ゴゴ（※）の活動を関連付けた取組を実施し、参加対象も拡大した、新たな4つのSPORTS・ARTプロジェクト（和太鼓、パフォーマンス、アート、スポーツ・レクリエーション）を立ち上げ、下記の内容で地域に開かれた障害児・者のスポーツ・文化芸術活動を推進するとともに、部活動・金ゴゴでの取組も充実させ、その成果を発表する場としての「くれたけまつり」を開催することで、2020年（平成32年）のスポーツ・芸術の祭典開催にむけての実践事例の蓄積と実施に係るノウハウを開発を目指した取組を行った。

※余暇体験サークル、部活動、金ゴゴの取組については後述参照。

① 4つのプロジェクト

ア 和太鼓PJ

和太鼓に興味関心を持つ児童生徒が集まる「和太鼓初級」「和太鼓中級」の授業に専門家が入り、指導・助言を行う。また和太鼓サークルには専門家が月1回のサークル活動実施日に指導・助言を行い、「くれたけまつり」で和太鼓演奏を披露する。

イ パフォーマンスPJ

音楽部では近隣の老人福祉施設で演奏会を開き地域交流を行う。音楽系の授業では地域のアンサンブルグループによる演奏会、専門家による授業の指導・助言及び特別支援教育における音楽指導の基礎に関する研修を受ける。リラックスサークルでは「くれたけまつり」でダンスを披露する。

ウ アートPJ

美術部では地域の老人福祉施設の利用者に渡すプレゼントを作成し、音楽部とともに交流会に参加し、作成したプレゼントを手渡す。

美術系の授業では専門家の指導・助言を受けて、授業改善を図り、「くれたけまつり」で展示する。

写真サークルでは地域団体の指導を受け活動し、作品を地域団体の作品とともに「くれたけまつり」で展示する。

エ スポーツレクリエーションPJ

陸上部は近隣大学の陸上部にジャベリックスローの指導を受け、卓球部は専門家の指導を受け技術の向上を図り、ソフトボール部は近隣中学校野球部と近隣障害者福祉施設ソフトボール部との交流試合を行う。「くれたけまつり」ではジャベリックスロー、卓球および卓球バレーのスポーツ体験コーナーを設置する。

【参考：「呉竹S（スポーツ）・A（アート）プロジェクト」イメージ図】



②外部専門家による指導

各取組の指導にあたっては、余暇体験サークルメンバーの保護者・担当教職員、部活動や金ゴゴを担当している教職員に加え、従前から指導いただいている地域の方や、近隣大学の学生、また「天才アートKYOTO」を始め、アートやスポーツの専門家に指導を依頼し、総合支援学校の児童生徒をはじめ、障害のある子どもたちがより「ほんもの」に触れる機会を増やすことや地域も巻き込んだ取組となることを目指した。

【本事業における外部専門家活用一覧】

項目	氏名 (敬称略)	所属	内容	備考
部活動	岩崎 豊	京都障害者スポーツ振興会	卓球部の技術指導	スポーツレクリエーションPJ (19時間)
	大学陸上部部員	学生ボランティア	陸上競技部(ジャベリックスロー)の技術指導	スポーツレクリエーションPJ 1回
授業	田中 容子	和太鼓奏者	「和太鼓」の指導	和太鼓PJ (11時間)

	岩井 るり子	和太鼓奏者	「和太鼓」の指導	和太鼓P J (6時間)
	松田 淳一	日本画家 天才アートK YOTO	「表現活動(美術)」の 指導・助言	アートP J (21時間)
	齋藤 一雄	聖学院大学	「音楽表現B」の指 導・助言	パフォーマンス P J (3時間)
	三好 俊昭	京都障害者ス ポーツ振興会	「体育館スポーツ」「室 内スポーツ」でのボッ チャの指導・助言	スポーツ・レクリ エーションP J (12時間)
	地域吹奏楽団	W i n d E n s e m b l e 響輝	「音楽表現B」の指導 校内演奏会の実施	パフォーマンス P J (1回)
校内研修	齋藤 一雄	聖学院大学	研修会講師「障害のあ る子どもの音楽指導」	パフォーマンス P J (1回)
くれたけ まつり	松田 淳一	日本画家 天才アートK YOTO	ライブパフォーマンス	アートP J (1回)
	三好 俊昭	京都障害者ス ポーツ振興会	ボッチャの指導	スポーツ・レクリ エーションP J (1回)

③くれたけまつり（呉竹SPORTS・ARTフェスティバル）

上記の取組の成果を地域の方や地域の小中学校等の全市に発信することを目的に、和太鼓やその他の音楽演奏、ダンスパフォーマンスや造形作品制作体験や展示、写真展示、小中学校児童生徒も参加するボッチャ体験等の障害者スポーツ体験で構成するフェスティバル「くれたけまつり」を開催した（平成30年2月24日開催）。

（3）Specialプロジェクト2020体制整備事業推進に関する会議

①会議の目的

2020年（平成32年）の総合支援学校におけるスポーツ・芸術の祭典の開催に向けて、現在の総合支援学校で実施されている運動会・文化祭の情報収集や指導助言、さらに

は呉竹総合支援学校において実施する実践研究の内容への指導助言及び評価を行なうことを通して、実施体制の構築に向けた検討を行う。

②検討事項

総合支援学校における運動会・文化祭の現在の状況や、実践研究の実施状況・内容への指導助言や評価を実施することを通して、2020年（平成32年）の祭典の実施内容及び実施のために必要な体制整備について検討する。

③平成29年度Specialプロジェクト2020体制整備事業推進に関する 会議委員

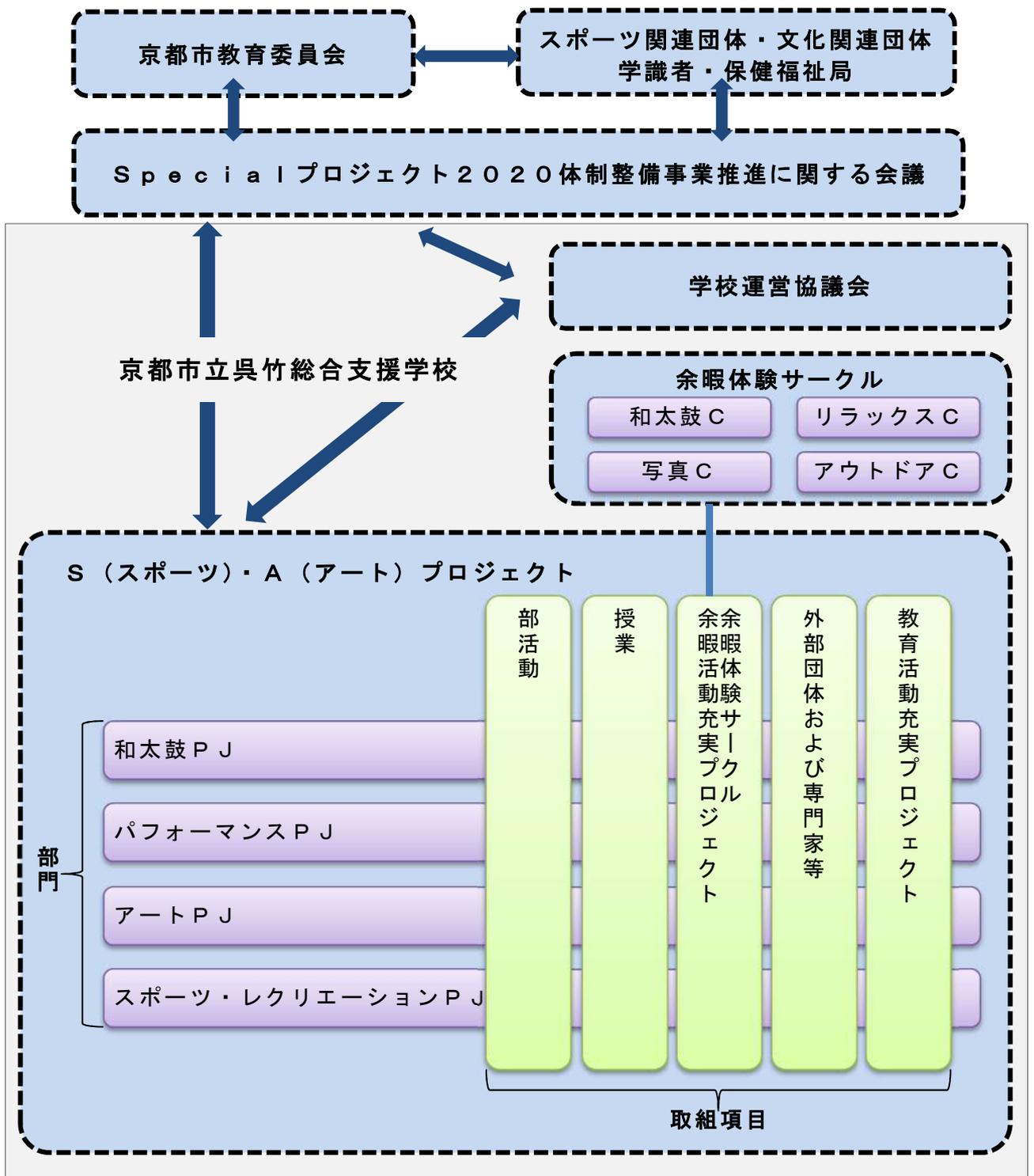
所 属	氏 名
京都教育大学発達障害学科准教授	丸山 啓史
（一社）京都障害者スポーツ振興会副会長	森田 美千代
特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構 （天才アート KYOTO）理事長	高島 寛
京都市立呉竹総合支援学校 学校運営協議会代表	今村 裕子
京都市立総合支援学校長会長 京都市立呉竹総合支援学校長	亀谷 正樹
保健福祉局障害保健福祉推進室 社会参加推進課長	大西 則嘉
教育委員会総合育成支援課長	伊藤 宏
教育委員会総合育成支援課指導主事	北福 浩章

④会議開催実績

（第1回会議）平成29年8月31日実施 「事業概要と29年度の取組について」

（第2回会議）平成30年3月1日実施 「29年度の取組の成果と課題について」

【運営組織図】



2. 余暇体験サークル

(1) 余暇体験サークルとは

呉竹総合支援学校では、障害のある子どもがそれぞれの地域の中で充実して過ごせるようになってほしい、豊かな余暇生活を送れるようになってほしい、という願いのもと、平成18年度に全国肢体不自由心身障害児童福祉財団による「地域余暇活動支援ネットワーク事業」として、学校と保護者が協力して「呉竹余暇体験サークル」を立ち上げた。現在では「和太鼓」「写真」「アウトドア」「リラックス」の4つのサークルが月に1回、土曜日に活動している。

(2) これまでの取組

①「地域で豊かな余暇を過ごしたい」という願いからサークルが発足

障害があっても各々の地域の中で充実した生活ができ、豊かな余暇を過ごせるようになってほしいと願い、平成18年に呉竹余暇体験サークルは学校を拠点に中・高等部の登録者20名で活動を開始。各サークルで、地域の催しに参加したり地域の方々と一緒に活動することで、繋がりを広めてきた。



<役員・地域の地蔵盆に参加した様子>

(発足当初地域のお祭りで和太鼓演奏)

②保護者と教職員の連携

サークル立ち上げ時に教職員による「余暇活動充実プロジェクト」を設置し、地域代表者とともに運営委員として保護者とともに企画運営を行い、サークル活動をサポートしてきた。具体的には、活動内容の検討、活動日の運営の確認、また活動内容の充実や、参加者の拡大等



(余暇体験サークルの運営)

の課題についても検討している。

③障害のある子どもの余暇生活の変化とサークル登録者

サークル登録者は平成18年度の20名から22年度には69名と増加してきた。その後はやや減少し、現在の登録者は57名である。最近では外出支援や放課後等デイサービスなどの福祉サービスの充実が図られ、障害のある子どもたちの余暇活動の場を求めている時代から余暇活動の場を選択できる時代になってきた。

(3) 29年度の取組

①地域に暮らす障害のある子どもたちへ参加の呼びかけ

平成22年度には通学区域内育成学級生徒も呉竹余暇体験サークルに登録できるようになったが、育成学級(特別支援学級)からの参加者は多くない。今年度は案内リーフレットと案内DVDを作成し、呉竹総合支援学校の通学区域内の中学校15校の育成学級生徒(350人)に、参加を呼びかけた。その結果、2名が見学体験を行い1名が登録した。



(案内リーフレット)

②「くれたけまつり」の開催



(「くれたけまつり」チラシ)

余暇体験サークルは毎年2月に、活動のまとめとして「余暇フェスタ」を開催してきたが、本年度は本事業のイベントと合同開催とし、学校と地域とのつながりを目指した「くれたけまつり」として開催した。

(4) 29年度取組の成果 ～地域とのつながり～

「くれたけまつり」では、伏見区社会福祉協議会をはじめ多くの障害者福祉事業所からも協力を得て、当日は400名を超える参加があった。

今回の取組を通して、今まで支援をいただいていた「藤森太鼓保存会」「PHG写真サークル」だけでなく、地域に住む方々や地域の各種団体とサークルを支えてきた保護者、教職員との間に、今までにないつながりができた。特にこれまで呉竹総合支援学校の近くに住みながら学校には来ていただくことがなかった住民の方々に参加していただき、「障害のある人が、地域の中で生き生きと暮らすこと、豊かな余暇生活を送ることは、障害者にとっても地域の人にとっても大切なことである」ことを理解していただく一歩を踏めたことは何よりの成果である。

(5) 今後の課題

設立当初よりサークルと地域とのつながりを深めることにより、運営主体を教職員から保護者へ移行することを目指してきた。そのためには教職員、保護者のマンパワーだけでなくサークル運営を支えるシステムを作り上げることが重要な課題として挙がっていた。これまで長年にわたり「藤森太鼓保存会」「PHG写真サークル」からの支援により特定のサークルは活動内容の充実が図ることができたが、地域とのつながりはまだまだ限定されたものであり、十分なものとは言えない。

今後は、今回の「くれたけまつり」をきっかけとした地域との出会いを活かし、そのつながりをさらに深め、地域からの人的支援や運営への参画等を受けた地域密着型の組織運営を通し、地域に暮らす障害のある子どもが参加できる、地域に根差した活動として、障害のある子どもの地域での余暇活動の充実と共生社会の実現を目指したい。



(余暇体験サークルの運営イメージ)

3. 部活動

(1) これまでの取組

現在，中学部 9 名（在籍生徒の約 20%），高等部 60 名（在籍生徒の約 59%）の生徒が部活動に所属しており，月曜日，水曜日の放課後に活動している。

運動部としてソフトボール部（14 名），陸上競技部（16 名），卓球部（18 名），文化部として音楽部（5 名），美術部（7 名）を設置している。

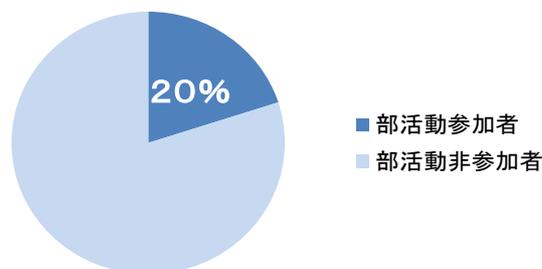
陸上競技部は年に 1 回，卓球部は年に 2 回の障害者スポーツ大会に出場しているが，ソフトボール部は対外試合，大会等には参加していない。

部活動の指導は，特定の教員が顧問として就くのではなく，教員が輪番制で担当しており，指導内容の充実が課題となっている。

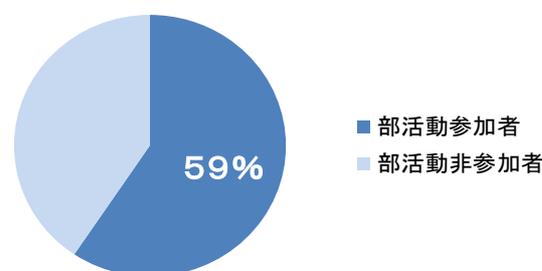
(2) 29 年度の取組 ～活動内容の充実～

卓球部では指導の専門性を確保するために，京都障害者スポーツ振興会の岩崎豊氏による技術指導を受けた。陸上競技部は学生ボランティア（近隣大学の陸上競技部員）からジャベリックスローの指導を受けた。ソフトボール部は近隣の桃山中学校野球部，社会福祉法人太陽の家と練習試合を行った。

中学部 部活動参加率



高等部 部活動参加率



（中高等部の部活度参加率）

(3) 29年度取組の成果 ～指導内容の充実と試合の経験～

卓球部は専門家の岩崎氏から技術指導を受けたことにより、生徒の技術向上はもとより教員の指導力向上にもつながった。日々の練習は楽しむことを中心にした余暇的な内容から技術の向上を目指した内容に変化してきた。1月に行われた「京都障害者チャンピオン卓球大会」では2名の生徒が参加し、前半は緊張から実力を発揮できなかったものの、後半は練習の成果を発揮することができた。

陸上部では京都教育大学陸上競技部員からジャベリックスローの技術指導を受けた。

また、「くれたけまつり」では卓球部員と陸上競技部員が近隣住民と卓球、ジャベリックスローを楽しんだ。

これまでソフトボール部は練習に励むものの、試合を経験することができなかったが、今年度は本事業を通し、2月に近隣の中学校の野球部、3月には障害者福祉施設のソフトボール部と念願の試合を行うことができた。

(4) 今後の課題

運動部系の部活動は、専門家等による指導で生徒の技術向上とともに教員の指導力の向上にもつながった。また、試合の機会が増えたことによる参加生徒の意欲の向上にもつながっている。

しかし、試合の経験はまだ不足しており、大会への出場者の増加や成績の向上を図りたい。今後は、文化部の発表機会を増やすことも課題である。

近年は特に高等部の生徒の実態が多様になってきたことに伴い、部活動へのニーズが高まっていることから、学校としての部活動の活動時間や指導のあり方を検討している。



(上：桃山中学校との交流試合の様子)
(下：太陽の家との交流試合後の記念撮影)

4. 「金ゴゴ」をはじめとする「たのしむ」授業の充実

(1) 「金ゴゴ」をはじめとする「たのしむ」授業とは

呉竹総合支援学校では、平成20年度に、授業づくりのキーワードとして「興味・関心、才能の伸長」を掲げ、「たのしむ」視点を重視したスポーツ系や芸術系授業の充実を図り、現在も教育実践の指標として「興味や関心を広げ、心豊かに生きる」が掲げている。

具体的には「たのしむ」視点の学習として、スポーツや芸術系活動、余暇的活動を中心にした授業を金曜日の午後に行っており、「金ゴゴ」と呼んでいる。学習集団は生徒の希望、興味や関心に応じて編成している。また、金ゴゴ以外の時間にもスポーツ系、芸術系の授業を行っている。

(2) これまでの取組 ～「たのしむ」視点の表現活動～

「金ゴゴ」をはじめとする「たのしむ」視点の授業では、障害者スポーツを含む様々なスポーツ、音楽系表現活動、身体的表現活動、美術系表現活動、余暇体験的活動、レクリエーション的活動を行っている。

呉竹総合支援学校では、これまでより特に美術系の表現活動に力を入れてきており、平成20年度から22年度までの3年間は、文部科学省の「芸術系大学学生を活用した特別支援学校教育推進事業」の委託事業を受け、芸術系学生および、大学教員や芸術家から指導・助言をうけて美術系授業の充実を図ってきた。その結果、子どもたちの興味や関心は広がり、他の芸術作品に影響されない独自の表現がこれまで数多く見いだされてきた。



(平成21年度・22年度の作品集)

(3) 29年度の取組 ～表現活動の指導の充実～

「金ゴゴ」をはじめとする「たのしむ」視点のスポーツ系・美術系・音楽系の授業の授業では、専門家の指導・助言を受け、取組を進めた。

「金ゴゴ」の「表現活動（美術）」では、天才アートKYOTOの松田淳一氏から、指導・助言をいただくとともに、モデル授業も実施していただいた。

「音楽表現B」では、地域のアンサンブルグループ「Wind Ensemble ^{ひびき}響輝」の演奏会を交えた授業を行った。また、聖学院大学教授の齋藤一雄氏には、授業についての指導・助言をいただき、指導部専任及び小学部教員対象に「障害のある子どもたちへの指導のあり方」について講演もしていただいた。

「和太鼓」は実態別に学習集団を編成し、二人の和太鼓奏者に子どもの実態に応じた指導をしていただいた。

「金ゴゴ」の「体育館スポーツ」「室内スポーツ」では京都障害者スポーツ振興会の三好俊昭氏からボッチャの技術指導を受けた。

(4) 29年度取組の成果

①「金ゴゴ」の「表現活動（美術）」

本事業の取組として、平成20年度から22年度まで「芸術系大学学生を活用した特別支援学校教育推進事業」において「金ゴゴ」の美術系授業の指導をしていただいていた、天才アートKYOTOの松田淳一氏（日本画家マツダジュンイチ氏）からの助言により授業の充実を図った。



(集中して取り組む様子)

具体的には子どもの個性や興味・関心に応じた表現方法、生徒が選択しやすい画材の配置、集中しやすい座席の配置等の具体的な助言をいただくとともに、モデル授業をしていただいた。

これらの取組により生徒の集中力が徐々に高まり、作品の質の向上が見られた。

②音楽系授業

障害のある子どもたちへの音楽教育の指導法を研究されている齋藤氏に音楽系の授業を見ていただき、「障害のある子どもたちへの指導の在り方」について具体的、実践的な助言を受け、授業改善を進めた。

研修会では齋藤氏から、特別支援教育における音楽指導の基礎を、実習を交えて指導いただき、専門性、指導力の向上を図った。

また、同じく音楽系の授業では地域のアンサンブルグループ「Wind Ensemble 響輝」による演奏会を実施し、アンサンブルグループと生徒たちが楽しい時間を共に過ごした。



(「Wind Ensemble 響輝」による演奏会の様子)

③「和太鼓」



(障害のある人もない人も共に交流する催し「ほほえみ広場」で演奏)

「和太鼓」の授業では、和太鼓奏者の田中容子氏、岩井るり子氏から実際の演奏を交えた指導を受け、生徒の演奏技術の向上、指導者の指導力の向上を図った。

④「ボッチャ」

「金ゴゴ」の「体育館スポーツ」「室内スポーツ」の授業で京都障害者スポーツ振興会 三好俊昭氏のボッチャの技術指導を受け、ルールの理解、技術の向上を図った。1月の京都障害者ボッチャ大会に8名が出場し、全員が敢闘賞をいただいた。今回の取組を機に、他の授業でもボッチャを教材とする機会



(京都障害者ボッチャ大会での様子)

が増えてきている。

(5) 今後の課題

外部の専門家や外部団体に指導・助言を受け、授業、部活動、余暇体験サークルの活動が充実してきた。次年度はこれまでより写真サークルの支援をしていただいた「PHG写真サークル」が解散することが決まった。余暇体験サークルだけでなく、今後地域との共生を考えるうえで、地域団体との協働は重要であり、様々な形での地域との連携を考えていく必要がある。

5. くれたけまつり

(1) 実施要項

1. 日 時

平成 30 年 2 月 24 日（土） 10：30～13：30

2. 目 的

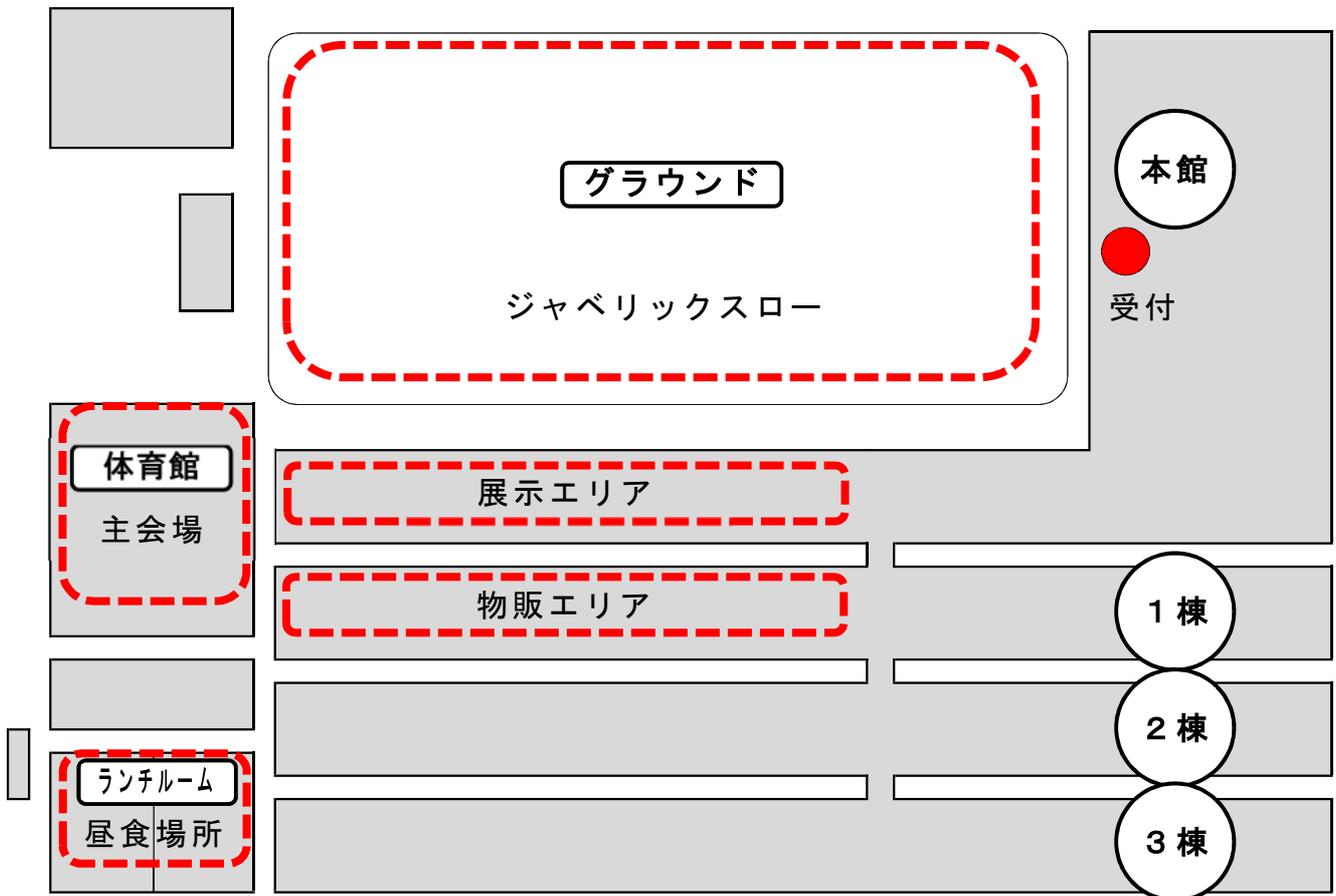
- 学校と地域の連携・協働による地域コミュニティーの構築を目指して、地域に開かれた学校づくりを進める
- 卒業後の社会参加機会を拡大するために、呉竹総合支援学校及び呉竹余暇体験サークルと地域や他団体とのネットワークづくりを進める。

3. 日 程

時 間	体育館	備考
10：30	【オープニング】 「呉竹ソーラン」 学校長開会のことば 余暇体験サークル会長挨拶 教育委員会挨拶	（校舎では作品展示と物販） ○高等部生徒によるインラインスケートによる入場と「呉竹ソーラン」の披露
50	【第1部】 余暇サークル活動の報告及び発表 ・和太鼓サークル 発表 ・アウトドアサークル 発表 ・写真サークル 発表 ・リラックスサークル 発表	各サークルによる発表
30	アートパフォーマンス ・Chī-kā-Tsu（ピアノとベースによる Jazz 演奏）と日本画家マツダジュンイチ氏のライブペインティングとのセッション	○Chī-Kā-Tsuのピアノ奏者は呉竹総合支援学校の卒業生

	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生と在校生（高等部2年）のピアノセッション ・「みんなで踊ろう」アイヌ舞踊 	<ul style="list-style-type: none"> ○ピアノセッション（アニメソング等のメドレー） ○「金ゴゴ」「表現活動（音楽）」によるアイヌ舞踊の披露
12:10	（会場準備）	
25	【第2部】 スポーツ体験 ボッチャ・卓球&卓球バレー（体育館） ジャベリックスロー（グラウンド）	○三好俊昭氏によるボッチャ指導
13:25	【閉会式】 学校長閉会のことば・挨拶	
30	終了	

4. 会場図



(2) 運営組織

くれたけまつりの運営スタッフは管理職とPTA本部役員、おやじの会のほか、教職員ボランティア、PTA役員ボランティア、学生ボランティアで組織した。スタッフの大半はボランティアで構成されている。

担当	役割内容	教職員	PTA	おやじの会	学生 ボランティア
		28名	20名	9名	7名
司会	司会進行	○	○		
受付	玄関にて受付	○	○		
案内	案内・誘導等		○		
設営・進行	体育館の準備、片付け、会場の物品移動 スポーツ体験への呼び込み、参加、指導	○		○	○
映像・記録	第1部のビデオ撮影、プログラム及びライブ映像等の放映・イベント全体の写真撮影	○			○
音響	機器確認等				
展示	展示会場の対応	○			○
販売	販売事業所等の対応	○	○		
指導・発表	発表及び、発表の指導 活動の指導・助言	○			
駐車場	正門・南門誘導	○			○
保育	スタッフの子どもの保育等	○			

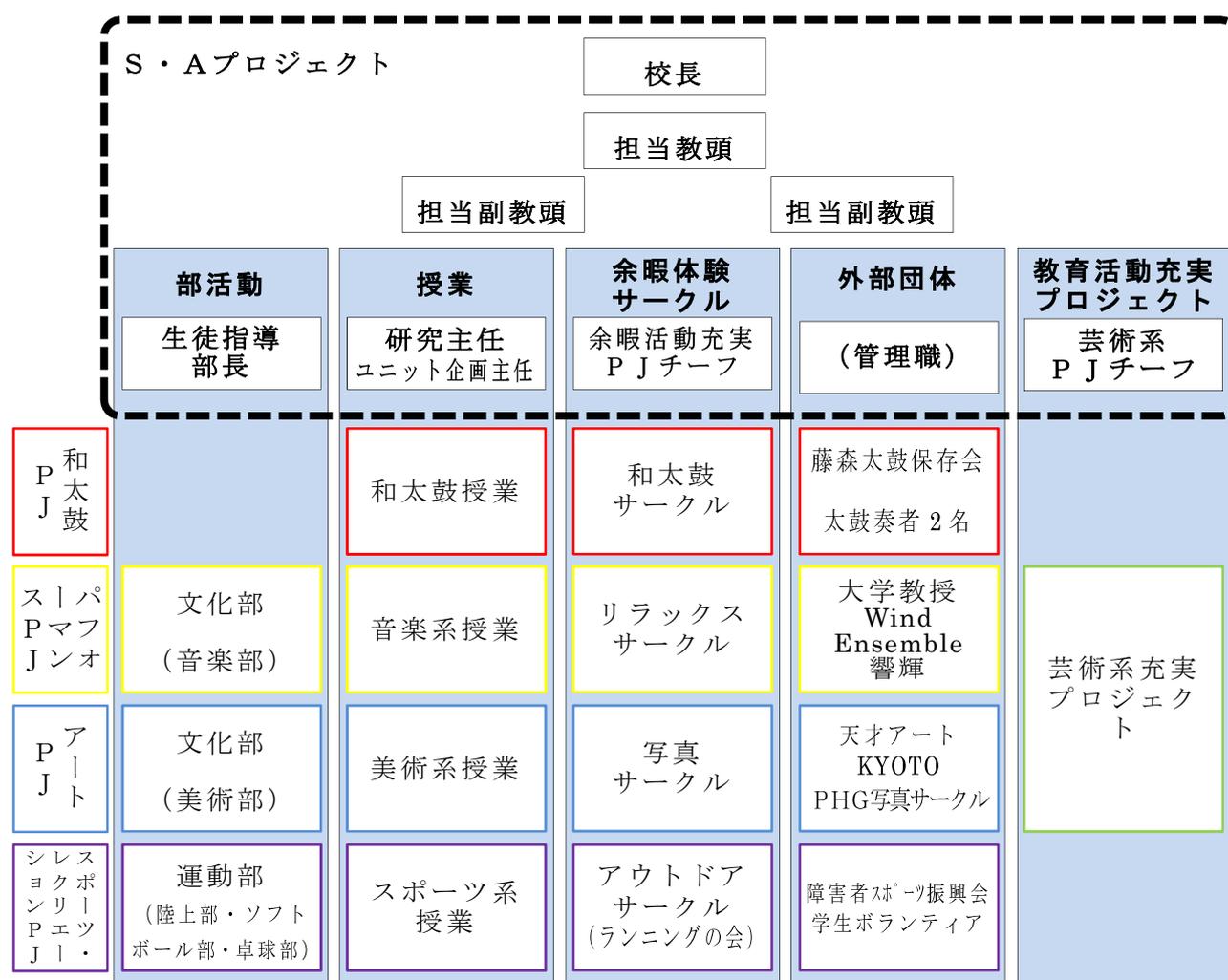
上記スタッフで約64名（福祉施設等からの販売担当者はスタッフから除く）

(3) 企画立案・準備の様子

①企画・運営体制

校長，担当教頭 1 名と担当副教頭 2 名（統括及び外部団体との連携担当），生徒指導部長（部活動担当），研究主任とユニット企画主任（授業担当），余暇活動充実 P J チーフ（余暇体験サークルとの連携担当），芸術系 P J チーフ（校内の教育活動充実プロジェクト（芸術系の取組全般）担当），が S・A プロジェクトを組織し，企画・立案・進捗状況の確認等を行った。

S・A プロジェクトは余暇体験サークル運営委員会・総会等を通じて事業の骨子をつくり，「学校運営協議会」と「Special プロジェクト 2020 体制整備事業に関する会議」から助言を受けて企画・運営を進めた。



②実施日程

「くれたけまつり」を迎えるにあたり、以下の日程で取組を進めた。

時期	内容
4月	第1回「S・A委員会準備委員会」(事業のおおまかな内容を検討)
	第1回「余暇体験サークル運営委員会」(事業の概要説明)
5月	一部外部団体との交渉(出演依頼等)
	第2回「S・A委員会準備委員会」(活動内容, 参加組織, スケジュール等の検討)
	第1回「S・A委員会」(事業の概要, 活動内容, 参加組織, スケジュール, 役割分担の等の検討・確認)
	「余暇体験サークル総会」(事業の概要説明と余暇フェスタと本事業の合同開催を承認)
6月	第2回「S・A委員会」(活動内容, 参加組織, スケジュール, 役割分担, 予算配分等の検討・確認)
7月	第1回「学校運営協議会」にて活動方針についての説明
8月	第1回「Specialプロジェクト2020体制整備事業推進に関する会議」(取組概要の確認, 取組への助言等)
9月	第3回「S・A委員会」(活動内容, 参加組織, スケジュール, 役割分担, 予算配分等の確認)
	第2回「学校運営協議会」にて要項説明(事業の方向性を確認)
	専門家による指導・助言, 予算執行を開始
11月	「くれたけまつり」参加団体決定
12月	「くれたけまつり」ポスター・チラシ発注
1月	第4回「S・A委員会」(くれたけまつりの進行役割分担等確認)
	広報開始
2月	第3回「学校運営協議会」(事業の進捗状況報告)
	2月24日(土)「くれたけまつり」
3月	第2回「Specialプロジェクト2020体制整備事業推進に関する会議」(取組成果の報告, 今後の取組に向けての助言等)

第2回「学校運営協議会」で本事業の要項を提案したところ、委員から本事業を学校として「児童生徒の学びの機会」「学校と地域とのつながりを広げ、深める機会」と位置付けることが大切であると助言を受け、教育活動の充実、地域連携をキーワードに取組を進めた。

③ 広報

ポスター・チラシを作成し、1月初旬に案内を行った。主な案内先は下記一覧の通りである。その他、京都市の広報誌である「市民しんぶん」への掲載、広報発表、HP掲載等によりイベント開催の周知を図った。

案内先	内容
呉竹総合支援学校児童生徒、卒業生及び教職員等	ポスター:約 15 枚 チラシ:約 400 枚
伏見区各学区 (伏見区社会福祉協議会から各学区に配布)	ポスター:約 25 枚 チラシ:約 500 枚
学校周辺(中学部・高等部生徒による配布)	チラシ:約 400 枚
通学区域内の小中学校育成学級+普通学級	ポスター:50 枚 チラシ:約 1000 枚
呉竹総合支援学校利用の放課後デイサービス事業所 および呉竹総合支援学校生徒の進路先の事業所	ポスター:約 100 枚 チラシ:約 1000 枚
関係機関	ポスター:約 20 枚 チラシ:約 300 枚

(4) 当日の様子

① 来場者

	参加者	小計	合計
参加者 受付で 記名した	外部	118名	377名
	呉竹総合支援学校児童生徒	99名	
	余暇体験サークル	90名	
	スタッフ	64名	
	その他	6名	

上記は受付で記名した参加者の内訳だが、記名者以外に、受付をせずに入場された参加者も多数あり、参加者は400名を超えたと思われる。

②体育館（第1部）

オープニングでは高等部生徒が呉竹ソーラン（毎年運動会で高等部が行っている演舞）を披露すると、会場の卒業生も一緒に踊る姿が見られるなど、会場は一気に盛り上がった。

学校長、余暇体験サークル会長、京都市教育委員会教育企画監によるあいさつの後、余暇サークルの年間報告



（「呉竹ソーラン」）



（左上：和太鼓 C, 右上：アウトドア C, 左下：写真 C, 右下：リラックス C）

及び発表が各サークルから行われた。

各サークルは参加している在校生、卒業生、他校生がスライドなどで工夫を凝らした活動報告するとともに、演奏やダンス披露を行い、参加者と発表者とが一体感のある報告・発表会になった。

その後は、呉竹総合支援学校の卒業生と元教

員によるジャズバンド“Chi-Ka-Tsu”の20分間の演奏の間に、美術系授業の指導・助言をいただいているマツダジュンイチ氏が演奏から受けたイメージを基に即興でライブペインティングする

というピアノとペインティングのセッションを行った。引き続き、卒業生（“Chi-Ka-Tsu”）と、



（上：ジャズとペインティングのセッション 下：ピアノセッション）



（ライブペインティング作品）

高等部在校生が1台のピアノでアニメソングなどを演奏、その間もマツダ氏のライブペインティングは継続し演奏終了時に作品が完成した。会場からは本物の芸術との出会いで感嘆の声が漏れてきた。会場のスクリーンには演奏の様子や制作の様子をライブ放映し、参

加者は演奏，制作を興味深く楽しむとともに，楽しい楽曲では皆で声を合わせて歌うなどアートを楽しむひと時となった。



(アイヌ舞踊)

アイヌ舞踊は金ゴゴで行っている音楽的身体表現活動で，授業に参加している生徒がステージで日ごろの成果を発揮した。ユニークな歌とユニークな踊りに会場にいた在校生や教職員も一緒に舞踊を楽しんだ。

②体育館・グラウンド（第2部）

第1部終了後，体育館設営を第2部仕様に変更し「卓球&卓球バレー体験コーナー」と「ボッチャ体験コーナー」を設置。グラウンドでは「ジャベリックスロー体験コーナー」を設置した。第1部が終了



(ジャベリックスロー)

し多数の参加者が物販コーナーに移動したが，スポーツ体験を楽しみにしていた参加者がスポーツ体験を楽しんだ。

初めての参加者は，はじめは戸惑いがあるものの，しばらくするとすぐに慣れ，声を上げながら楽しむ姿が各コーナーで見られた。



(卓球バレー)



(ボッチャ)

③展示コーナー

「呉竹アート展」では作品を展示するだけでなく，呉竹アートの考え方や作者の心情，作者にとっての制作・表現の意味についての解説をしたパネルも展示した。

「写真サークル展」では，サークルメンバーや地域の写真グループPHGによる何気ない日常生活を鋭い視点で切り取った作品を展示した。



(左上：呉竹アート展，右上：天才アート展
左下：写真サークル展，右下投下展示風景)



(作品介绍パネル)

「天才アートKYOTO展」では、本事業の協力団体である天才アートKYOTOとマツダジュンイチ氏の作品を展示した。

作品を熱心に見入る参加者の姿から、障害のある人たちの才能や表現の強さ、素直さなどを十分に理解していただける展示になったと思われる。

④販売コーナー・遊びコーナー



(販売コーナー)

日ごろから卒業生がお世話になっている9か所の障害者福祉施設と、社会福祉協議会、呉竹総合支援学校PTAからの物品を「口コミ人気のおすすめ人気商品」として販売した。

広い廊下がいっぱいになるほどの盛況で、多くの参加者に喜んでいただけた。また、PTAの遊びコーナーは、障害のある子どもも気兼ねなく遊べる場として大好評であった。



(遊びコーナー)

(5) 参加者の声

受付を通った300名以上の参加者にアンケートを配布したが、アンケート記載台を設置しなかったためにほとんど回収できなかった。回収できた19枚の内訳は以下の通り。

【1】「くれたけまつり」に参加してみてどうでしたか		
楽しかった	18人	94.7%
楽しくなかった	0人	0%
どちらともいえない	1人	5.3%
【2】よかったものは何ですか（複数回答）		
オープニング	8人	42.1%
余暇体験サークルの報告及び発表	7人	36.8%

ジャズピアノ演奏とライブペインティングのセッション	6人	31.6%
ピアノ演奏のセッション	4人	21.1%
アイヌの踊り	0人	0.0%
ボッチャ体験	3人	15.8%
卓球体験	0人	0.0%
卓球バレー体験	1人	5.3%
ジャベリックスロー体験	0人	0.0%
作品展示	5人	26.3%
その他	2人	10.5%

【3】「くれたけまつり」のことをどのように知りましたか

ポスター・チラシを見て	12	63.2%
知人から	1	5.3%
市民しんぶんで	1	5.3%
その他	5	26.3%

【4】今後もこのようなイベントがあれば参加したいと思いますか

参加したい	18	94.7%
参加しない	0	0.0%
その他	1	5.3%

【5】ご意見・ご感想などがあればお書きください

子どもたちのすてきな作品を見ることができてよかったです。太鼓の演奏素敵でした。来年もやってほしいです。
たくさんの方に呉竹のことを知っていただく良い機会だと思います。楽しいひと時をありがとうございました。
みなさんのイキイキとした姿に私も楽しい気持ちになりました。
卒業生も久しぶりの再会にあふれ、見ている側もうれしくなりました。ありがとうございました。
一般では楽しめない場面が多いですが、PTAの遊びコーナーや社会福祉協議会のタオル人形作りで落ち着いて遊んでくれていました。
初めてのイベントと聞きました。次回はもっと大きな会場を使えると良いなあと思いました。今後のイベントを楽しみにしています。

【1】『くれたけまつり』に参加してみてどうでしたか」の質問に対して18名が「参加したい」と回答している。1名が「どちらでもよい」と回答しているが、回答者は【4】「今後もこのようなイベントがあれば参加したいと思いますか」の質問に対しては「参加したい」と回答しており、回答者の全員が興味を持ったと思われる。

【2】「よかったものは何ですか」の質問に対して、第1部前半の出し物に「よかった」の回答が多くなった。余暇サークルの発表が終わって多数の参加者が物販コーナーに移動したことが関連している可能性があり、その点を考慮して分析する必要がある。

【3】『くれたけまつり』のことをどのように知りましたか」の質問に対して半数以上が「ポスター・チラシを見て」と回答している。「その他」と回答した詳細は、学校や事業所からチラシの案内をもらったと回答しており、チラシによる案内が有効であることが分かった。

【4】「今後もこのようなイベントがあれば参加したいと思いますか」の質問に対して18名が「参加したい」と回答している。その他の1名は「その他」と回答しているが、「時間が合えば参加したい」と追記しており、全員が「参加したい」と思ったと判断できる。

(6) 成果

余暇体験サークルは障害のある人たちが生涯にわたり地域で楽しく暮らすことを目指してきだが、これまでは地域の団体からの支援は受けていたものの、地域社会に自ら積極的な発信はあまりしていなかった。今回の「くれたけまつり」ではサークルが例年行っている「余暇フェスタ」を本事業と合同開催したことで、これまでの「余暇フェスタ」に比べ参加者が増えるとともに規模も大きくなり、今までにない地域への発信ができた。

サークルの発表者からは「緊張したけど楽しかった」「来年もやりたい」「自分の作品を観てもらえてうれしかった」等との声が多く寄せられ、サークルを活性化するきっかけとなるイベントになった。

「くれたけまつり」では卒業生の進路先にも案内をしたことで、多くの卒業生が集うことができた。卒業生やその保護者からは卒業後、どうしても友達に会う機会も減り、大勢で楽しむ機会はほとんどなくなるので、このような場は卒業生にとっても大変うれしいとの声が数件あった。卒業後も学校が生活を豊かにする場として役割を担っていることを認識できた。

イベントを参加型・体験型にしたこと、展示に解説を入れるなどの工夫をするとともに余暇体験サークル、地域団体、画家と幅広い展示ができたこと、物販を充実させたことで幅広い層の方に楽しんでいただけた。

広報をするにあたり京都伏見区社会福祉協議会や伏見区役所から協力があり、学校と地域とのつながりが深まるとともに、参加者も参加者も増え、目標の400名を超えた。

(7) 課題

今回は通学区域内の小中学校の育成学級児童生徒全員と普通学級用に各校10枚のチラシ配布を行ったが、近隣の小中学校の保護者から小中学校の児童生徒全員にチラシを配布してほしいとの声があった。今後は普通学級児童生徒全員に配布すること検討したい。

体育館で午前中に余暇体験サークルの報告・発表とアートパフォーマンスを行い、午後には同じく体育館でスポーツ体験の第2部を行い、午前・午後を通して校舎で展示発表と物販を行った。開始時間から多くの参加者が体育館に集まったが、途中で一気に物販コーナーに人が流れた。また、午後の部は会場設営のために15分程度の時間をおいてスポーツ体験(卓球&卓球バレー、ボッチャ)を開始したために体育館に残る人が少なくなった。今後も参加者の移動は当然起こるが、一時的にメイン会場(体育館)にいる人が減ることを避けるために、実施形態を工夫する必要がある。

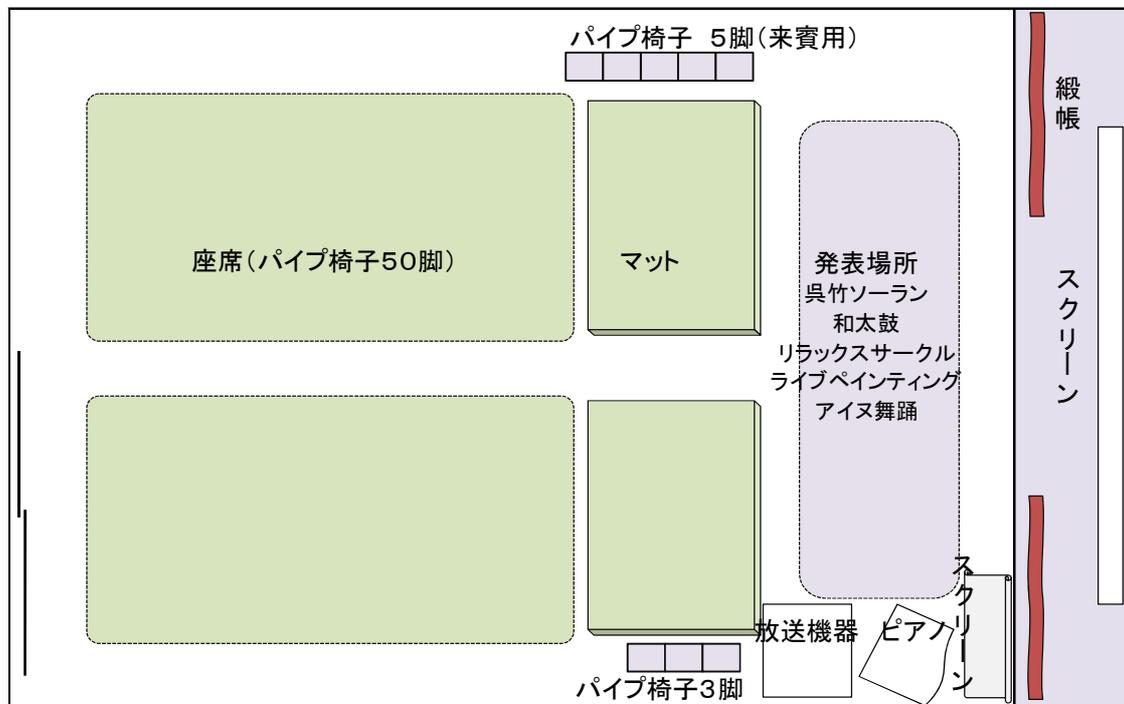
イベントはメイン会場の進行と受付、展示、物販等の動きが同時並行で行われるためにスタッフの人数確保や事前の各担当の打合せ等について検討する必要がある。

チラシを見ただけで内容がわかりにくいとの声があり、次年度はわかりやすく、行きたいと思えるチラシの作成をしていきたい。

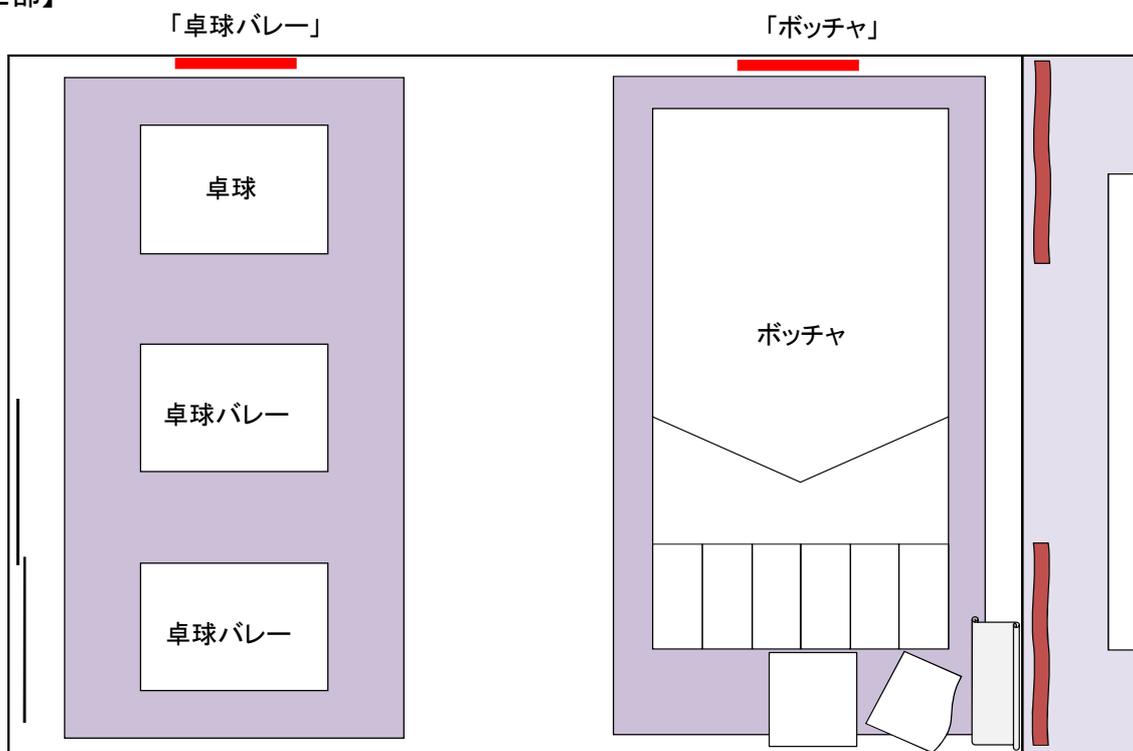
(8) 参考資料

① くれたけまつり会場図 (体育館)

【第1部】



【第2部】



②「くれたけまつり」進行表

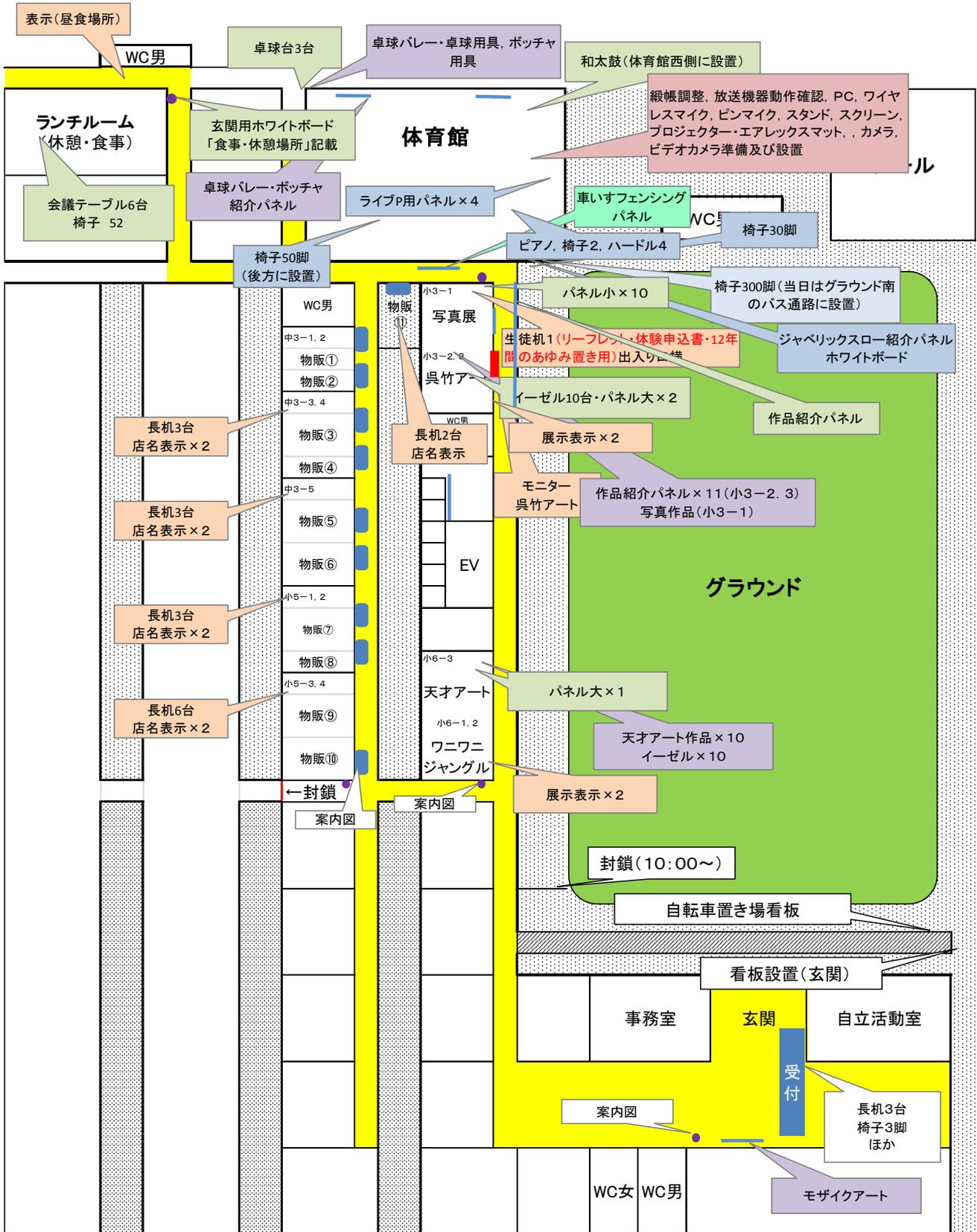
時 間	内 容	備 考
9 : 15	スタッフ・各担当打合せ・準備	
10 : 00	受付開始	販売準備 来賓は校長室に案内・接待（管理職対応） 受付ではプログラムとアンケート用紙を配布 靴用ビニール袋用意（傘は傘立て）
10 : 20		オープニング登壇者は：会場待機 呉竹ソーラン演舞者は会場の外で待機 司会：副教頭，P T A 副会長 着席：来賓，校長，余暇体験サークル会長
10 : 30	【オープニング】・出店準備開始 呉竹ソーラン 学校長開会のことば 余暇体験サークル会長挨拶 教育委員会挨拶	展示・販売開始 発表後，演舞者は会場の外に出る 和太鼓セッティング
10 : 50	【第 1 部】 余暇サークル活動の報告及び発表 ・和太鼓サークル 発表 ・アウトドアサークル 発表 ・リラックスサークル 発表 ・写真サークル 発表	各サークル代表者による発表 和太鼓を会場外へ移動 発表後は会場の外に出る 音響機器等操作 パフォーマンス登壇者は舞台付近で待機
11 : 20	アートパフォーマンス ・ Chi-ka-Tsu（Jazz 演奏）とマツダジュンイチ 氏のライブペインティングとのセッション ・ 卒業生と在校生のピアノセッション ・「みんなで踊ろう」アイヌ舞踊	Chi-Ka-Tsu 演奏 Chi-Ka-Tsu 演奏+ライブペインティング 卒業生と在校生の演奏（会場も参加） 表現活動（音楽）生徒の演舞（会場も参加）
12 : 10	片付け・準備 （昼食・休憩）	パイプ椅子は倉庫に移動 卓球・卓球バレー・ボッチャの準備はスポーツ担当スタッフ
12 : 25	【第 2 部】 スポーツ体験 ・ ボッチャ（体育館） ・ 卓球&卓球バレー（体育館） ・ ジャベリックスロー（グラウンド）	スポーツ担当スタッフが指導，呼び込み
13 : 25	【閉会式】	
13 : 30	学校長閉会のことば・挨拶	片付け

③ 「くれたけまつり」スタッフの動き

動機	担当	役割													見守り係対応								
		司会	受付	案内係	券運販売	わいわい チャンプル	運営・進行	スライド・音響・照明			音響	照明	美術	衣装・装束	受付係	見守り係対応							
		PTA 教職員	PTA・教職員				お中元(8名)・お泊り(9名)・教職員	単泊り	中長スクリン	教職員	教職員	単泊り	福祉施設等	専門家 演奏者	教職員	小3	中3	高1	高2	高2			
人数		2名	3名+α		2名	7名	お8名, 学9名, 教	2名			4名			2名	2名程度	余暇C, 余暇B等	2名	1名	1名	1名	1名	1名	
責任者																							
09:15	スタッフ全体打合せ・準備		打合せ・準備	打合せ・会場確認・準備 清潔準備(ラヂヤ)	打合せ・出店準備	打合せ・体育館物品確認・準備	機材確認 カメラスタンド ビデオカメラ カメラ	機材確認 P/C 配線 C/D-R等 放映状況	機材確認 マイク4本 M/Sスタンド2本 C/Dデッキ C/D-R等														
10:00	受付開始	出店準備	プログラム、アンケート用紙、脱衣の配布(傘は希望で)	① ② ③④ ⑤⑥ ⑦⑧		司会マイク3本設置 舞台マイク2本確認 スタンド2本確認	適宜校内風景の写真撮影 ライブペインティングパネル(ハードル) 確認																
10:30	【オープニング】 真竹ソーラン 学校長朗読のことば 余暇体験サークル会長挨拶 教育委員会挨拶	販売開始	【司会挨拶】 【学校長挨拶】 【余暇体験サークル会長挨拶】 【教育委員会挨拶】	①校門玄関付近 ②図書室前 ③④中央廊下通路 ⑤体育館前 ⑦⑧ラヂヤルーム 付近	販売開始	和太鼓設置(演奏者は演奏場所) マイク2本/M/Sスタンド1本/C/Dデッキ	和太鼓設置(演奏者は演奏場所) マイク2本/M/Sスタンド1本/C/Dデッキ																
10:50	【第1部】 余暇サークル活動の報告及び発表 ・和太鼓サークル 発表【演奏】 (太鼓出し入れ) ・アウトドアサークル 発表【ハッポ】 ・写真サークル 発表【ハッポ】生徒発表 ・リラックスサークル 発表【ダンス】	司会交代	【発表】 【ハッポ】 【ダンス】			和太鼓設置(演奏者は演奏場所) マイク2本/M/Sスタンド1本/C/Dデッキ	和太鼓設置(演奏者は演奏場所) マイク2本/M/Sスタンド1本/C/Dデッキ																
11:20	アートパフォーマンス	作品完成後コメント・拍手	【セッション】			スクリーン画像を切り替え(P/P/Tから会場)	スクリーン画像を切り替え(P/P/Tから会場)																
11:22	ピアノとライブペインティングのセッション		【セッション】			ピアノを所定の位置に移動	ピアノを所定の位置に移動																
11:37	卒業生と在校生のピアノセッション		【セッション】			ピアノを元の位置に移動	ピアノを元の位置に移動																
11:55	・「みんなで語ろう」アイヌ舞踊		【舞踊】			スクリーン画像を切り替え(P/P/Tから会場)	スクリーン画像を切り替え(P/P/Tから会場)																
12:10	お弁当・準備(昼食・休憩・ランチョンM)	物品販売 展示 食事等	【食事】			マイク・スタンド撤去、会場設置 椅子撤去(多目的教室へ)、卓 椅子設置(体育館前側通路から) マット(自立活動室へ)																	
12:25	【第2部】 スポーツ体験 ・ポッチャ ・卓球&卓球バレー ・ジャベックスロー 【閉会式】 学校長朗読のことば・挨拶		【閉会式】 【学校長挨拶】			呼び込み スポーツ体験参加	呼び込み スポーツ体験参加																
13:20	お弁当																						
14:00	全体打合せ																						

④ 準備物配置図

校内図(準備用)



6. S p e c i a l プロジェクト2020体制整備事業の成果と課題

(1) 成果

本事業の取組を通して、外部専門家の活用による部活動・授業・余暇体験サークル等様々な教育活動における活動内容の充実，指導方法の改善を図ってきた。特に指導方法の改善に関しては，日常の指導においても活用できる学校としての専門性向上につながることを期待できる。

呉竹総合支援学校がこれまで推進してきた，余暇につながる教育活動やスポーツ，芸術に関わる教育活動を地域に発信できたことも大きな成果である。これまで障害者を理解することは，障害のある人たちの困難さが注目されがちであったが，近年は地域に暮らす生活者というプラス思考の啓発が進んでいる。障害のある子どもたちがスポーツを楽しみ，芸術表現活動を楽しんでいる姿を地域の方々に目の当たりに見ていただけたことは，障害者理解の一助になったと感じている。

(2) 課題

今後，障害の有無や年齢・性別を超えた，地域の共生社会の拠点づくりを進める上で，地域との深いつながりが必要となってくる。総合支援学校が主体となっていく地域連携活動を地域に根付かせるためには，今まで以上に学校と地域の日常的な連携が求められる。

呉竹総合支援学校は平成18年度から学校運営協議会を設置し地域の声を生かした学校経営を行ってきたが，地域との連携はまだ十分ではないことを実感している。

今回の事業や日常の教育活動を通じて，さらに地域とのつながりを深め，地域との協働・共生社会の実現を目指したい。